



9条改憲NO! 平和といのちと人権を!

憲法集会に6万人

憲法記念日の3日、江東区の有明防災公園で「9条改憲NO! 平和といのちと人権を! 5・3憲法集会」が開催され、6万人(主催者発表)が参加。日本共産党・志位和夫委員長、立憲民主党・枝野幸男代表、民進党・



壇上でプラカードを掲げる市民団体と野党の代表。右から5人目は志位和夫委員長

ない。この旗を捨てた途端に内閣が瓦解するからです。それなら国民が引導を渡してやろうではありませんか」と、9条改憲をめぐる安倍政権と国民との歴史的な対決局面を強調。「安倍政権による9条改憲を許さない

大塚耕平代表、社民党・又市征治党首があいさつし、自由党・小沢一郎代表がメッセージを寄せました。志位委員長は、「安倍首相は内政、外交ともボロボロで末期状態です。しかし9条改憲だけは絶対にあきらめようとし



—この一点で力を合わせ、市民と野党の共闘を広げに広げ、安倍政権もろとも9条改憲のたくらみを葬り去ろうではありませんか」と呼びかけると、大きな拍手と歓声がわきおこりました。集会ではほかに、山内敏弘一橋大名誉教授、作家の落合恵子さん、市民連合の諏訪原健さんらがリレートークをおこないました。

人と人が繋がる 北マルシェ

5日、6日に赤羽公園で開かれた第1回「北マルシェ」。人と人が繋がる地域連携をコンセプトにした手づくりフェスタは、大盛況でした。(のの山けん)



日本軍「慰安婦」
を描いた絵本

花ばあば 日本語版 刊行

赤羽の出版社「ころから」より



この4月、韓国の絵本作家クオン・ユンドクさんの「花ばあば」（原題 꽃할머니）日本語版が刊行されました。2010年に韓国で出された絵本ですが、日本軍「慰安婦」をテーマにしているという理由で、日本での出版が難航。多くの方々の協力のもと、8年がかりで刊行へとこぎつけました。（のの山けん）

「花ばあば」はもともと、2005年に日本の絵本作家がよびかけてスタートした「日・中・韓平和絵本」プロジェクト（全11冊）の中の一冊でした。他の10作品はすでに3カ国で出版されていますが、日本軍「慰安婦」問題を扱った「花ばあば」だけが、日本で未刊行に。この本が世に出ることを望まない、「慰安婦」問題を否定する勢力などから攻撃を受けることが予想されるからでした。

クオンさんは、日本で出版するために、何度も何度も絵を描き直し、関係者と協議を重ねてきましたが、出版社の結論は「断念せざるを得ない」でした。しかし、その後も日本の絵本作家、市民活動家、児童文学者、平和を愛する多くの市民たちが本の出版を願って努力を続け、話をもちかけられた赤羽の出版社「ころから」の英断により、ついに刊行されることになったのです。

発売日となった4月29日、神保町のブックハウスカフェで、クオンさんを招いての講演会が開かれ、作者自身の口から日本での刊行に向けた苦闘の一端をうかがうことができました。

絵本が持つ説得力と優しさはもとより、この本の刊行に向けた努力そのものが、平和と人権を守る貴重な財産だと確信します。

一人でも多くの人に、この絵本を手にとり、子どもたちと一緒に読んでほしいと願うばかりです。

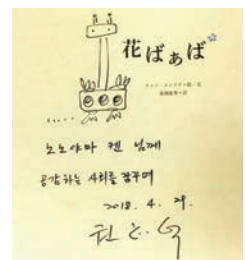


講演する絵本作家のクオン・ユンドクさん



作者のクオン・ユンドクさんと懇談

29日の講演会終了後、交流会に参加し、クオンさんと懇談。「花ばあば」日本語版の刊行で肩の荷が下りたと思いきや、次は韓国民主化の契機となった光州事件を題材に新作の構想を練っているとか。気さくで明るい、魅力的な韓国女性でした。



「共感する社会を夢見て」と記された作者のサイン